

2. 小児がんの診療能力強化

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナムの小児がん患者は年間 4,000 名と推測されるがその多く（8～9 割）は診断・治療を受けることができず、また多くの医療関係者は小児がんの診断・治療の経験が不足している。

【活動内容】

世界最高水準を保持する日本の小児がん医療を活用して、国立国際医療研究センターと日本の複数の施設が、ベトナムの小児がん診療拠点病院であるフエ中央病院とホーチミン小児病院第 1 と、小児がんの診療能力を強化するために、専門家の派遣 2 回と日本国内研修 1 回を行った。

【期待される成果や波及効果等】

小児がんの診断・治療・看護ケアなどの診療能力が向上し、診断・治療を受ける小児がん患者の数が増加する。小児がん医療に関する知的財産・機器・薬剤などに波及効果が見込まれる。

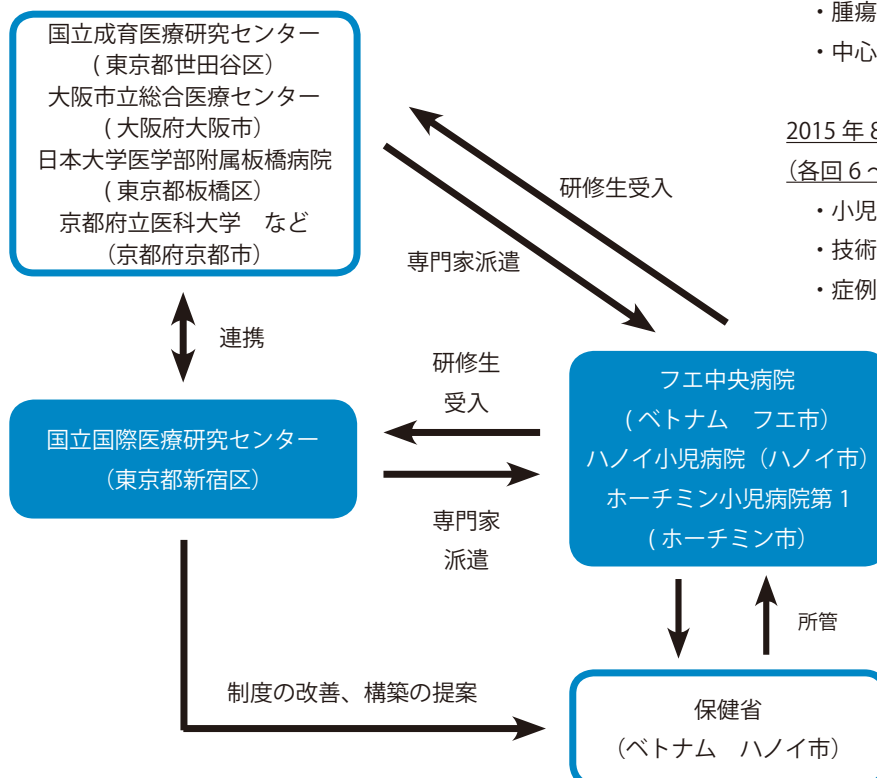
<研修実施結果>

2016 年 1 月 研修生受入（10 名）

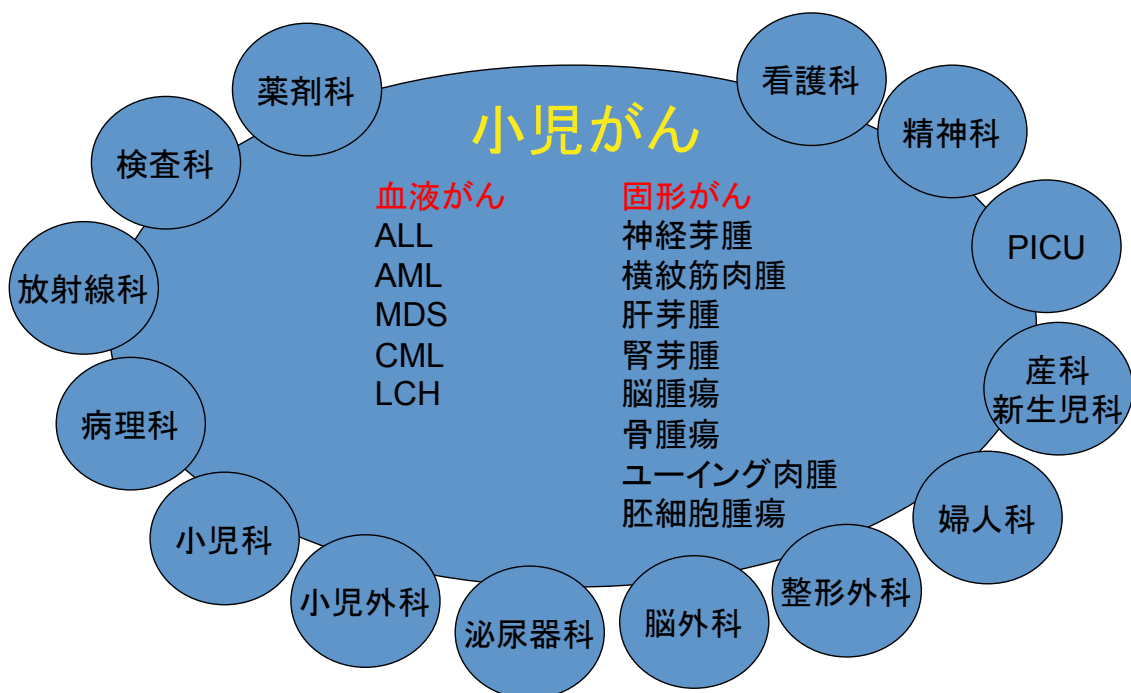
- ・日本の小児がん医療見学
- ・疾患・診断・治療の講義
- ・腫瘍カンファレンス参加
- ・中心静脈ルート管理の実技研修

2015 年 8 月と 12 月 日本人専門家派遣（各回 6～8 名）

- ・小児がんに関するセミナー開催
- ・技術指導・カンファレンス
- ・症例相談



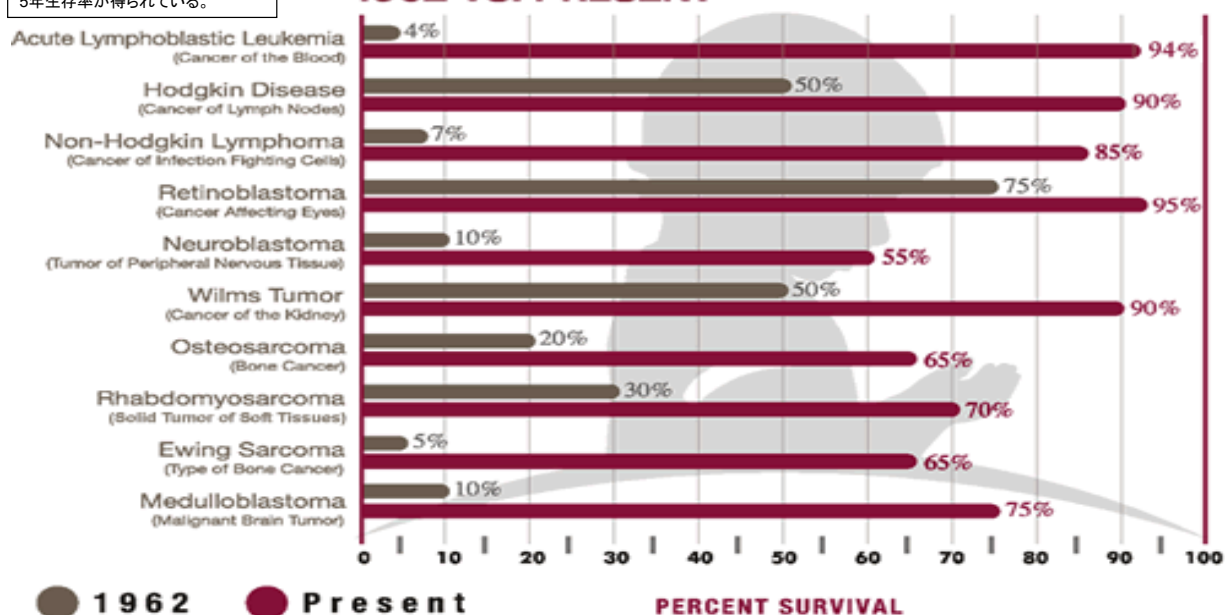
事業背景：小児がん医療体制



小児がん医療体制は総合医学であり、多数の科の専門医療が必要とされ診療科横断ネットワークが必要とされる

小児がんの治療成績の変遷
50年前は不治の病であったが、
先進諸国では、現在では8割以上の
5年生存率が得られている。

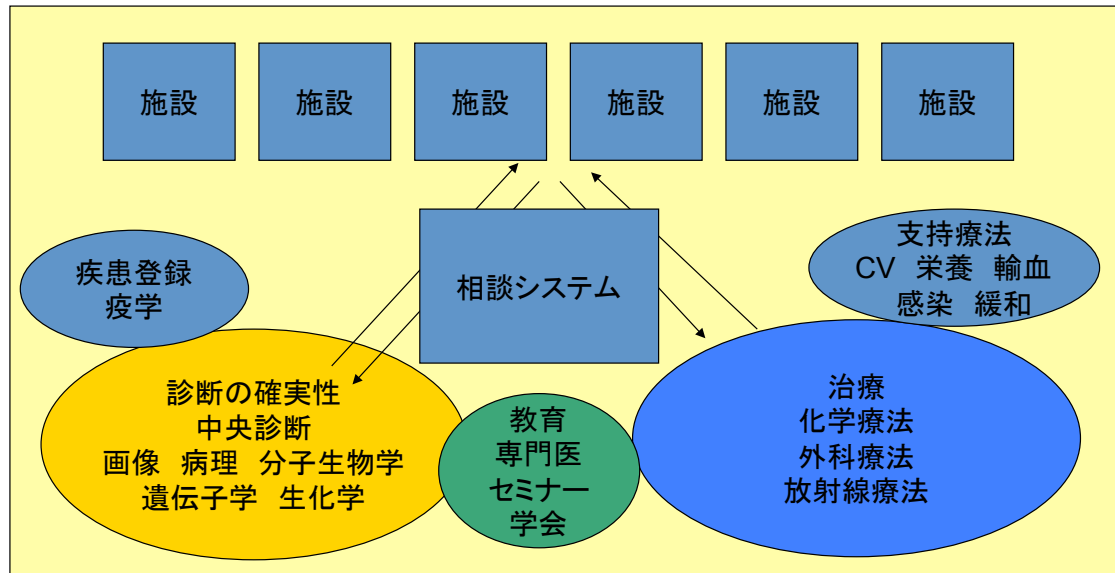
5-YEAR CANCER SURVIVAL RATES 1962 VS. PRESENT*



ALSAC/St. Jude Children's Research Hospital - Danny Thomas, Founder
800.822.6344 | www.stjude.org

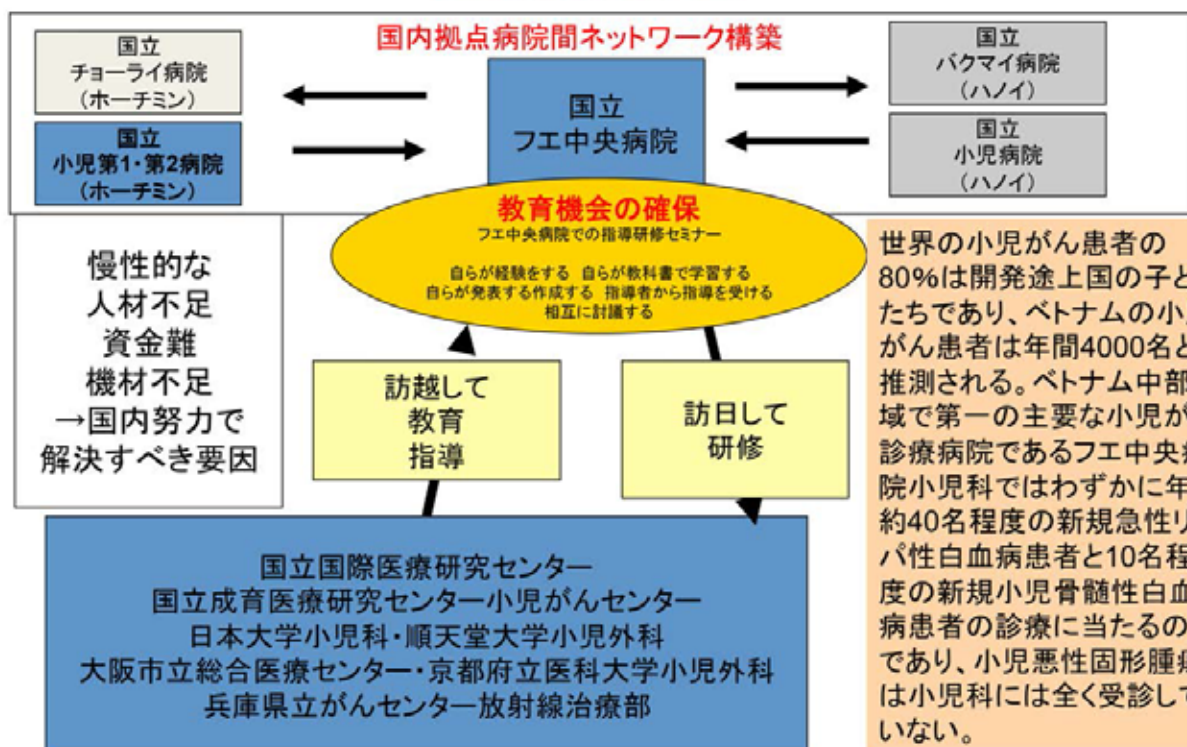
*Based on national averages over the past 10 years in diseases St. Jude played a leading role in treating and curing.

小児がん診療体制の概略

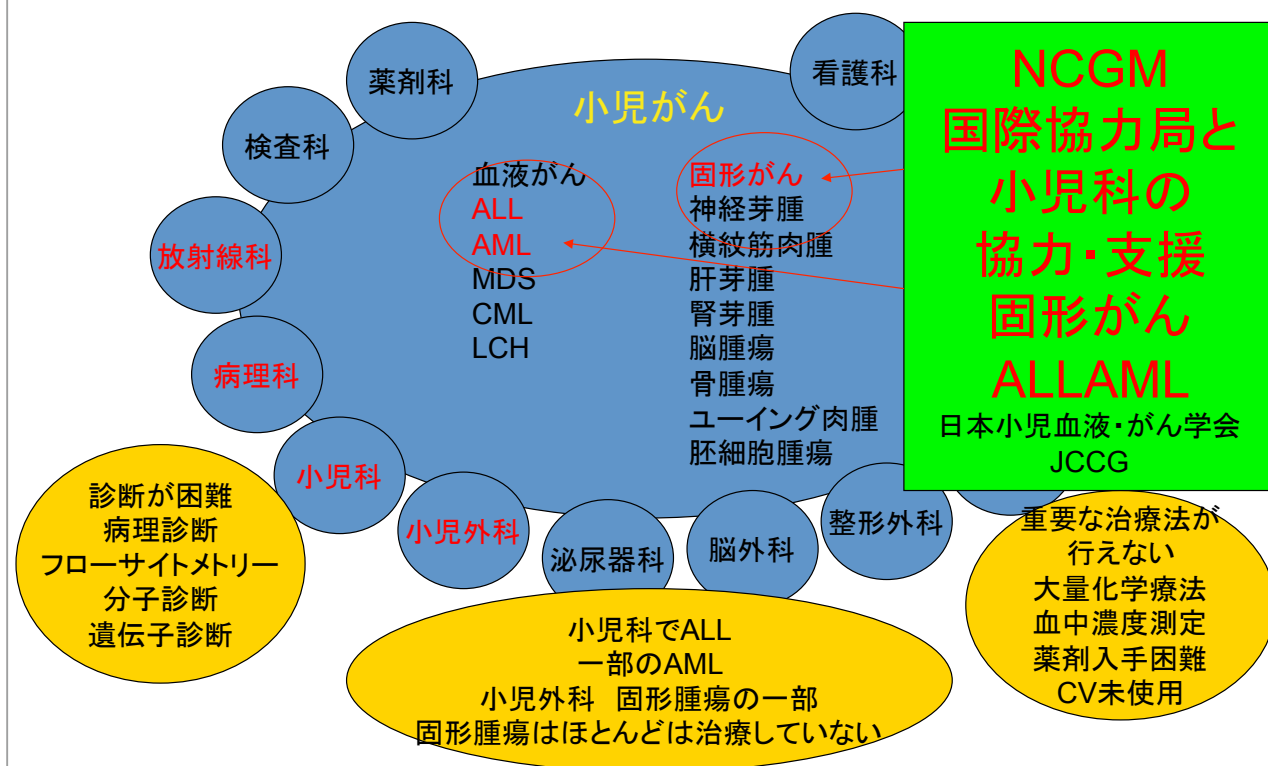


多数の専門家集団が必要

人材育成計画



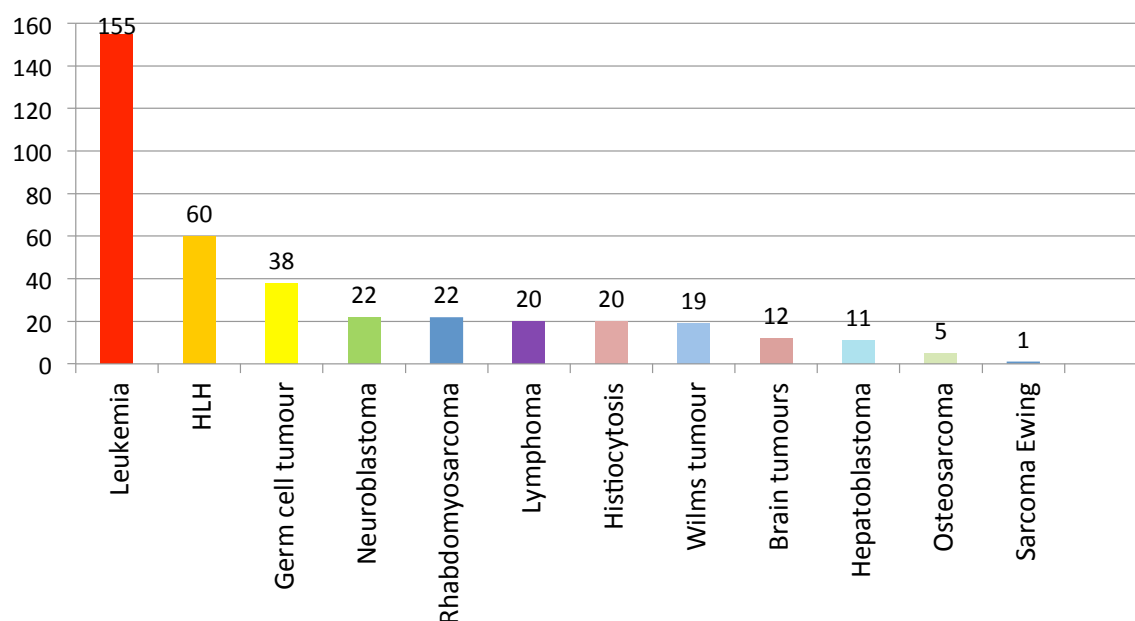
フエ中央病院での小児がん医療体制問題点



ホーチミン小児病院第一での小児がん診断数

全例他院へ転院し治療されている 数年後には自院での治療を希望している

Số ca



事業報告

第1回訪越事業

活動期間:

平成27年8月24日(月)より平成27年8月30日(日)まで

出張国名及び都市名:

ベトナム社会主義共和国 フェ市

活動の背景:

世界の小児がん患者の80%は開発途上国の子どもたちであり、そこでは誤診・発見の遅れ・医療の提供不足・治療放棄などの多くの課題が存在する。ベトナムの小児がん患者は年間4000名と推測されるが、ベトナム中部地域で第一の主要な小児がん診療病院であるフェ中央病院小児科ではわずかに年間約40名程度の新規急性リンパ性白血病患者と10名程度の新規小児骨髄性白血病患者の診療に当たるのみであり、小児悪性固形腫瘍は小児科には全く受診していない。

第1回訪越事業成果

- ・ ベトナム社会主義共和国フェ市に、日本人専門家8名を2015年8月24日～30日の期間派遣した。
- ・ 8月25日と26日の両日に国立フェ中央病院小児医療センター血液腫瘍科では小児がん症例のカンファレンスを行い、また医療技術指導・助言を行った。
- ・ 27日と28日の両日はフェ中央病院カンファレンス棟で小児がん教育セミナーを開催し教育を行った。
- ・ 27日には小児医療センターでのカンファレンスを、28日には放射線治療の技術指導・助言を併せて行った。

小児がん教育セミナー

8月27日と28日の両日に、フェ中央病院カンファレンス棟で小児がん教育セミナーを開催した。本セミナーはフェ中央病院・ACCL・ASCO・ベトナム腫瘍学会と本展開推進事業との共同開催で実施され、ベトナム腫瘍学会の一部として開催されたものである。

小児がんのセッションが2日間にわたり全日のプログラムとして開かれ、述べ演題数26題の発表講義はベトナムでは初めてのことであった。

両日の参加者は約140名の多数となり盛んに討議が行われた。

1日めは腫瘍カンファレンス方式として行われ6症例が検討された。実施時間は8:30から17:00まで行われた。

2日めは小児がんセッションとして、9:30から17:30まで20演題の発表が行われた。

参加者は、ハノイ・ホーチミン・ダナン・フェの小児がん拠点病院からは教育的講義のための専門家が参加し、またベトナム中部地域の省病院や郡病院の一般小児科医が受講者として参加した。

本事業はフェ中央病院よりGold Sponsorとして表彰を受けた。

第1回訪越事業 派遣日本人専門家

派遣した専門家は以下のとおりである。

- 国立国際医療研究センター小児科 診療科長 七野浩之
- 国立国際医療研究センター小児科 医師 加藤弘規
- 国立成育医療研究センター小児がんセンター センター長 松本公一
- 大阪市立総合医療センター小児外科部長 米田光宏
- 兵庫県立がんセンター放射線治療科 部長 副島俊典
- 京都府立医科大学小児外科 講師 文野誠久
- 京都府立医科大学小児外科 医師 都甲さゆり
- NPO法人 アジア・チャイルドケア・リーグ 代表 渡辺和代

第1回訪越事業 日本人専門家による教育セミナー講義

- 加藤弘規 Tumor Board Case report - Lymphoma
- 七野浩之 Solid tumor symptoms detection. Clinical assessment and suspect cancer.
Pediatric leukemia : diagnosis, treatment, outcome : ALL is curable also in your country
- 松本公一 Chemotherapy for pediatric solid tumors
- 米田光宏 Current surgical strategy for neuroblastoma
- 副島俊典 Radiation therapy for pediatric cancer
- 文野誠久 Current surgical strategy for hepatoblastoma in Japan
- 都甲さゆり Tumor Board Case report - Neuroblastoma

第1回訪越事業 ベトナム側主要参加者

- 小児医療センター長 フン Hung
- 小児医療センター外来医長 リン Linh
- 小児外科医長 ティエン Thien
- 小児外科医 ヒエウ Hieu
- 小児医療センターICU医長 ホア Hoa
- 総合小児科医師 フー Hu
- 小児循環器医師 タン
- 麻酔科部長 フオン Huong
- 病理科部長 バン Bang
- 放射線治療科部長 ユイ Duy
- 血液検査科部長 ホア Hoa
- 小児血液腫瘍科部長 ハー Ha

教育セミナー風景



日本人専門家



ランチオンベトナム小児がん会議



教育セミナー風景



Gold sponsor表彰 右端が七野

小児がん教育セミナー



教育セミナー 日本人専門家 七野(左上) 松本(中上) 米田(右上) 副島(左下) 会場(中・右下)
本セミナーはフエ中央病院・ACCL・ASCO・ベトナム腫瘍学会と本事業との共同開催で
実施され、ベトナム腫瘍学会の一部として開催されたものである

ベトナムにおける小児がん医療に携わる主要な医師



2015年にフエ・ハノイ・ホーチミンで小児がん診療にあたっている小児科医・小児外科医・病理診断医が一堂に会し、ベトナムにおける小児がん診療グループを結成する準備会を行った。日本人専門家はその会合に出席し助言を行った。

事業報告 第2回訪越事業

活動期間：

平成27年12月14日(月)より平成27年12月19日(土)まで

出張国名及び都市名：

ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市及びフエ市

活動の目的：

ベトナムの小児がん診療拠点病院におけるフエ中央病院の小児科・小児外科・放射線科・病理科・看護科などに対し、診断治療のためのネットワーク構築を行、ホーチミン小児病院第一にたいしては今後の小児がん診療能力の強化に寄与することを目的とした。

第2回訪越事業成果

事業の概要:

- ・ ベトナム社会主義共和国ホーチミン市及びフエ市に、日本人専門家6名を2015年12月14日～19日の期間派遣した。
- ・ 国立フエ中央病院小児医療センター血液腫瘍科では12月15日と16日の両日小児がん症例のカンファレンスを行い、また医療技術指導を行った。
- ・ 17日と18日の両日はホーチミン小児第一病院デング出血熱・血液科を訪問し、これから小児がん化学療法を開始するための技術支援につき意見交換をし、併せて小児がん教育セミナーを開催した。

第2回訪越事業 派遣日本人専門家

- ・ 国立国際医療研究センター小児科 診療科長 七野浩之
 - ・ 国立国際医療研究センター小児科 医師 松井基浩
 - ・ 国立成育医療研究センター放射線診療部 医長 堤義之
 - ・ 順天堂大学医学部小児外科・小児泌尿生殖器外科 准教授 土井崇
 - ・ 順天堂大学医学部小児外科・小児泌尿生殖器外科 医師 村上寛
 - ・ 日本大学医学部小児科学系小児科学分野 准教授 谷ヶ崎博
- 16日には、別の研究で訪越していた日本人医師2名も合流した。
- ・ 国立国際医療研究センター小児科 医長 佐藤典子
 - ・ 国立国際医療研究センター小児科 医師 山中純子

第2回訪越事業 ベトナム側主要参加者

フエ中央病院

- ・ 小児医療センター長 フン Hung
- ・ 小児外科医 ヒエウ Hieu
- ・ 小児医療センターICU医長 ホア Hoa
- ・ 麻酔科部長 フオン Huong
- ・ 病理科部長 バン Bang
- ・ 放射線治療科部長 ユイ Duy
- ・ 血液検査科部長 ホア Hoa
- ・ 小児血液腫瘍科部長 ハー Ha

ホーチミン小児病院第一

- ・ 小児病院長 フン
- ・ 小児血液科医長 トウアン

第2回訪越事業風景



フエ中央病院でのカンファレンス



ホーチミン小児病院第一での教育セミナー参加者



フエ中央病院での技術指導



ホーチミン小児病院第一での教育セミナー



フエ中央病院での症例相談

事業報告 訪日事業

活動期間：

平成28年1月11日(火)より平成28年1月22日(金)まで

訪日団：

ベトナム社会主義共和国 フエ市 フエ中央病院スタッフ

活動の目的：

8月と12月の訪越団による教育および討議を受けて明らかになった問題点を解決するため、および日本における複数の施設の最先端の小児がん治療を見学実習することを目的とした。

訪日事業スケジュール

1/10～11	日～月	移動	
1/12	火	オリエンテーション ・研修目的、実習ガイダンス等	担当責任者
		NCGM病院見学	七野 浩之
1/13	水	NCGM小児病棟 CV管理 清潔操作	七野 浩之
		移動 大阪へ	
1/14	木	大阪市立総合医療センター	米田 光宏
1/15	金	大阪市立総合医療センター	米田 光宏
1/16	土	自習	
1/17	日	午後移動東京へ	
1/18	月	NCGM研修	七野 浩之
1/19	火	成育医療研究センター	松本 公一
1/20	水	成育医療研究センター	松本 公一
1/21	木	【修了式】	七野 浩之
		帰国準備	
1/22	金	帰国	

訪日事業 主な指導日本人専門家

主な日本側受け入れ専門家は以下のとおりである。

- ・ 国立国際医療研究センター小児科 診療科長 七野浩之
- ・ 国立成育医療研究センター小児がんセンター センター長 松本公一
- ・ 国立成育医療研究センター放射線診療部医長 堤義之
- ・ 大阪市立総合医療センター小児外科部長 米田光宏
- ・ 兵庫県立がんセンター放射線治療科 部長 副島俊典
- ・ 国立国際医療研究センター小児科 医師 加藤弘規
- ・ 国立国際医療研究センター小児科 医師 松井基浩

訪日事業 ベトナム人研修生

訪日団は、2回の訪越日本人派遣時に研修を受けた10名
研修の継続性・一貫性を重視した

- ・ 小児医療センター長 フン Hung
- ・ 小児医療センター副センター長 マイ Mai
- ・ 小児医療センター外来医長 リン Linh
- ・ 小児外科医長 ティエン Thien
- ・ 小児外科医 ヒエウ Hieu
- ・ 麻酔科部長 フオン Huong
- ・ 病理科部長 バン Bang
- ・ 放射線治療科部長 ユイ Duy
- ・ 血液検査科部長 ホア Hoa
- ・ 小児NICU看護師長 ハオ Hao

訪日事業風景



国立国際医療研究センター研修



国立成育医療研究センター研修



大阪市立総合医療センター研修



国立国際医療研究センター研修



国立成育医療研究センター研修



小児がん医療、放射線治療・外科治療・血液腫瘍治療・麻酔治療・病理診断・新生児治療など各専門に分かれて実習を行った。

事業の成果と今後の課題

ベトナムの小児がん診療拠点病院であるフエ中央病院及びホーチミン小児病院第一の小児科・小児外科・放射線科・病理科・看護科などの指導的立場である部長医長クラスに対し、実際の診療・制度の学習と、最新の医療情報を講義したことにより、今後の両施設での小児がん診療能力の強化の主体となるメンバーに直接働きかけをすることができた。自施設では取り組めていなかった複数科の横断的小児がん診療グループを形成することができた。

また、以下のような問題点課題を明らかにした。

- ①医療スタッフは医師看護師ともに不足している。全ての科部門において不足している。
- ②ベッド数は不足をしている。廊下に簡易ベッドを設置したり、ベッドの共有が行われている。
- ③医療機材は不足している。機器は古く、多くは寄付によるものであり、定期的に購入更新・維持などは行われない。
- ④薬剤は不足している。保険で賄われない薬剤はまだ多く使用できない薬剤が多い。
- ⑤患者数は多いが、系統的な経験が不足している。日米欧での標準的治療が提供できていない領域が多い。

一方で、個人的な技量が高い専門家領域や、重点的に金銭を配置されている分野でのレベルは日米欧と同じレベルである。そうでない部門との差が非常に大きい。これらについて、数力年の計画で改善していくように計画をベトナム側小児がん拠点病院で立案し、それに協力する形で支援を継続したい。